

在アルゼンチン日系人との会合における

河野外務大臣挨拶

皆様、こんばんは。外務大臣の河野太郎です。本日は、アルゼンチン各地から、多くの方々にお集まりいただき、心から御礼申し上げます。

このような盛大な歓迎会の開催にご尽力いただきました生垣(イケガキ)・在亜日系団体連合会(FANA:ファナ)会長、米須(コメス)同副会長及び玉城(タマキ)・沖縄連合会(沖連)会長、テラダ日亜友好議員連盟会長、その他関係者の皆様に感謝申し上げます。

2年前に安倍総理がアルゼンチンを訪問した際に、約1,000人のアルゼンチン日系社会の方々と中南米代表9か国の方々と、ここ沖連会館でお会いし、日本と日系社会との関係を更に進展させたいとの希望を表明しました。私もまさに今日同じ思いでここに立っております。今回、私は外務大臣に就任して以来初めて、また個人的にも初めての中南米訪問です。そして、日本の外務大臣のアルゼンチン公式訪問はなんと24年ぶりと聞きました。24年前におじゃました外務大臣は父の河野洋平でした。先週、フォリー外相から電話をもらいG20について話し合ったが、日本の外務大臣としては24年振りの公式訪問だが、その時の外務大臣もコウノという名前であったとおっしゃったので、私からそれは自分の父親であると申し上げた次第です。父は1997年の天皇皇后両陛下の御訪問の際にも首席随員として一緒にアルゼンチンを訪問しました。アルゼンチンには親子で何か特別な縁を感じております。また、ここブエノスアイレスは2020年の東京オリンピック開催が決まった街です。我々日本人にとりまして、幸運を呼ぶ街と言えます。

アルゼンチンを含む中南米地域と日本との関係の根底には日系人の皆様の長い移住の歴史があります。中南米地域で皆様が勝ち得た信頼が、そのまま日本への信頼に繋がっています。大変有り難いことです。だからこそ、皆様との関係をもっともっと強くしていきたい。そんな思いを、本日、皆様に直接伝えられることを嬉しく思います。アルゼンチンへの最初の日本人移住から130年あまりが経ち、現在のアルゼンチンの日系社会が約65,000人にのぼり、ブラジル、ペルーに次ぐ中南米第3位の規模となりました。この沖連会館はもちろん、日亜友好のシンボルである日本庭園や日亜両国の教育理念を取り入れているブエノスアイレス日亜学院、あるいは各地の日本人会などで様々な日本文化・スポーツ発信に取り組まれておられます。特に先月、ここサン・ファン通りで秋祭り「ブエノスアイレス・セレブラ・ハポン」が開催され、その中で、新しい東京五輪音頭も踊られたと伺っています。

日系社会の皆様お一人お一人のこれまでの歩み、アルゼンチンの発展や、日本との友好関係強化のためのご尽力に深く敬意を示し、感謝を申し上げます。皆様こそ、日本の誇りです。かつて、中学1年生の私が初めてアメリカを訪問し、ロサンゼルスの方々に大変御世話になりました。それ以来、日系人の皆様との関係を大切にまいりました。これからは、アルゼンチンをはじめ中南米地域の日系人の皆様とも、是非交流を深めていきたいと思っております。昨年は、「中南米日系社会との連携に関する有識者懇談会」から報告書を頂きました。この報告書の内容に即して、私は3つのことを申し上げたいと

思います。

まず、日系社会の先輩が築かれた「日亜の絆」を大切に守り育てていながら、若い日系人との連携も、今後、一層強くしていきたいと考えています。若い日系人の方々が先祖の祖国が日本であると誇りに思いつつ、生まれ育ったアルゼンチンの発展に貢献し活躍されることが大変重要だと思います。アルゼンチンには日系社会の若者を中心とした組織であるセントロニッケイなどがあり、国を越えた様々な交流をしていると承知しています。日本政府も、毎年次世代の日系社会のリーダーの日本への招待も行っています。今年は、この訪日招待に合わせて、日本でシンポジウムを開催します。その中で、日系社会の課題、取組や経験の共有、世代間の連携、現地社会との協力などについて、参加者に大いに議論して頂きたいと思います。

2つめに、若い日系人の方々のネットワークづくりについても今年からお手伝いさせていただきます。日本とのつながりを再発見するきっかけを提供していきたいと思っています。特に、各国の日系コミュニティ相互の連携、あるいは国境を越えた日系社会の交流も重要で、これまでの活動に敬意を表し、今後一層力を入れて応援したいと思っています。汎米日系人大会「COPANI(コパーニ)」や日系国際スポーツ親善大会「CONFRA(コンフラ)」は大変有意義なイベントと思います。昨年これらの大会にあたり、私は東京から外務省の幹部を派遣し、日本の外務大臣として初めてのメッセージをお届けさせて頂きました。

3つめに、在日日系社会との関係にも取組みたいと思います。日本に住んでいる日系人の方々は、日本経済に貢献すると共に、日本と中南米諸国の交流に重要な役割を果たされてきました。その一方で、日本にいる日系の方々の中には、地域社会との共生や子供の教育等で大変なご苦労をされた方もいると聞いています。日本の社会が日系人を温かく迎え入れ、またその中からこれからの日本と母国を結ぶ架け橋として活躍する人材が育つ、そんな社会の実現を応援する体制作りのお手伝いをしていきたいと思っています。

最後に、本年は日本とアルゼンチンにとりまして、外交関係樹立120年という節目の年です。現在、両国は非常に貴重な時間を過ごしています。一昨年から昨年にかけて2年連続して首脳相互訪問が実現しています。本年はアルゼンチンがG20議長国、来年は日本がG20議長国になることから、4年連続して両国の首脳相互訪問が行われる見通しであります。日本とアルゼンチンは遠く離れていますが、この両国の友好関係の架け橋として、FANAを中心に日系社会の皆様が緊密に協力しながら、日本文化の普及などに尽力して下さることを大変心強く思っております。

日系社会の皆様、アルゼンチンの皆様との連携を強化し、この特別な二国間関係を大切に育てていこうと思います。本日は、本当にどうもありがとうございました。

(了)